

2013年11月20日
株式会社クラレ

～LT協定に基づく初めてのプラント輸出から半世紀～
中国へのビニロンプラント輸出 50周年記念式典を北京で開催

株式会社クラレ(本社:東京都千代田区、社長:伊藤文大)は、中国へのビニロンプラント輸出 50周年記念式典を、11月15日、当時プラント建設を行った北京で開催しました。

当日は、中国人民対外友好協会や在中国日本国大使館からもご来賓を迎え、約200名の方々にご出席いただきました。式典では、大原謙一郎氏(当社第二代社長 大原總一郎のご子息、大原美術館理事長)による講話、大原總一郎の研究者である早稲田大学客員准教授 兼田麗子先生の講演、日中でプラント輸出に関わった当時の関係者による座談会を行いました。

1. 中国へのビニロンプラント輸出について

1958年、中国化学工業考察団が来日した際、民生用繊維増産の目的でビニロンプラント輸入の申し入れがあり、交渉がはじまりました。当時はまだ、日中間に国交が回復しておらず、中国へのプラント輸出は極めて異例でしたが、当社は1963年6月、ポパール・ビニロン一貫生産プラントを輸出する契約を締結しました。これは、1962年11月に日中両国間で結ばれた「日中総合貿易に関する覚書(LT協定)」に基づく、中国へのプラント輸出の第一号となりました。



主催者挨拶を行う
社長 伊藤文大



中国人民対外友好協会
秘書長 李希奎氏



北京を訪問した大原總一郎元社長(前列左から3人目)
陳毅氏(元副総理、前列左から4人目)
廖承志氏(前列左から2人目)らと



建設した北京のビニロン工場

2. ビニロンとは

- ポリビニルアルコール(ポパール)を原料とする合成繊維で、京都大学の桜田一郎教授らによって1939年に開発された。
- 日本における合成繊維の第一号でビニロンと命名され、1950年に当社が世界で初めて工業化した。
- 合成繊維の中で最も親水性があり、高強度で耐候性に優れる上、アルカリや酸に強いのが特長。
- アスベスト代替のセメント補強繊維として、欧州や日本国内の建築市場で需要が拡大しており、今後東南アジア、東ヨーロッパ、中南米での活躍も期待されている。
- 当社のビニロン生産拠点:岡山事業所(岡山市南区)

この資料に関するお問い合わせ先: (株)クラレ IR・広報部 中嶋・井出 TEL 03-6701-1073